



12:1 そうこうしている間に、おびただしい数の群衆が集まって来て、互いに足を踏み合うほどになった。イエスはまず弟子たちに対して、話しだされた。「パリサイ人のパン種に気を付けなさい。それは彼らの偽善のことです。

12:2 おおいかぶされているもので、現わされないものはなく、隠されているもので、知られずに済むものはありません。

12:3 ですから、あなたがたが暗やみで言ったことが、明るみで聞かれ、家の中でささやいたことが、屋上で言い広められます。

12:4 そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。

12:5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。

12:6 五羽の雀はニアサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。

12:7 それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。

12:8 そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。

12:9 しかし、わたしを人の前で知らないと言

う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。

12:10 たとい、人の子をそしることを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません。

12:11 また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。

12:12 言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」

パリサイ人はユダヤ宗教の教師で、その特権ゆえに自分は義人であるということを見せられる人々でした。しかしその偽善は明らかで、イエス様は「おおいかぶされているもので、現わされないものはなく、隠されているもので、知られずに済むものはありません。」と言われましたが、それは時代を越えて、私たちへの戒めでもあります。

そもそも、「おおいかぶされている」から丈夫だという考えがあるのは、神を恐れていないからです。永遠のさばきの権威を持っておられる方を恐れるべきであるのは言うまでもありません。

逆説的ですが、神様の義と権威を恐れる人はそのみこころに沿っていこうとしますから、神様のさばきを恐れる必要がなくなります。もちろん十字架による赦しがあつてのことですが、すでに救われている私たちも、安心しきってしまい神を恐れることを忘れていないか、自己吟味が必要です。

人よりも神を恐れる者は、人が見ていなくても正しい方向を選ぶことができます。また誰に対してもビクビクしません。そしてそのような価値観は、証しのときに表れます。イエス様を知らないとは言わないでしょう。そして聖霊によって語る事ができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

